

ISO 認証機関

ASR エイエスアール 通信

<https://www.armsr.co.jp/>

2026 March
VOL.49



- エイエスアールのお客様紹介 p.2-3
アルファテックス株式会社様
- ISO9001の運用における課題 p.4-5
～要求事項の本質を理解しましょう～ (第1回)
- ISO14001改訂に向けて p.6
～内部監査とマネジメントレビューを活かすために～
- 企業様向けISO関連教育サービス p.7
- 組織様向け情報 p.8

アルファテックス株式会社様 (東京都品川区)

アルファテックス株式会社様には、VOL.32（2020年1月発行）のお客様紹介にご登場いただきしており、今回は2回目のご紹介です。前回の掲載から6年が経過した現在の企業としての姿や、ISOへの取り組み方の変化について伺いました。同社は2000年にISO9001、2007年にISO/IEC27001を取得されています。



(右) 代表取締役社長 石川 春 様
(左) 執行役員 竹沢 渉 様

—現在の事業内容についてお聞かせください。

当社は、「業務改善サービス」を提供する会社として事業を展開しています。すべての業務領域を対象とするのではなく、企業のバックオフィス業務に特化した、業務改善・業務改革の実現を支援しています。そのための手段として、当社では大きく三つのサービスを提供しています。

一つ目はITサービスです。システム開発やクラウドサービスの導入、システムの運用・保守など、ITを活用しながら業務改善を実現するサービスを総称して「ITサービス」と呼んでいます。

二つ目は業務サービスです。一般的にはBPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）と呼ばれる分野で、経理・人事・営業支援・情報システムなど、バックオフィスを中心とした間接業務を、当社がお客様に代わって担います。

三つ目はコンサルティングサービスです。お客様の目指す姿や抱える課題を丁寧に分析し、実現に向けた企画・提案から実行までを支援します。

これら三つの事業を組み合わせることで、「業務改善サービス」を軸とした価値提供を行っています。



▲本社は品川区 五反田
前回インタビュー後の2020年6月に移転されました。

当社はシステム開発から出発しましたが、創業当初から一貫して大切にしてきたのは、「開発そのもの」ではなく、「お客様に成果をお届けすること」です。システム開発は、あくまでもその成果を実現するための手段の一つにすぎません。創業から現在までの39年間、保守・運用に加え、時

代の変化に合わせて、業務の一括受託や業務改革・改善の提案から実行支援へと領域を広げてきました。こうして当社のサービスは、絶えず変化しながら進化し、現在も着実に裾野の広がりを見せています。

—この6年間で、ISOへの取り組み方に変化はありましたか。

前回もお話したとおり、当社がISOを取得したきっかけは、「お客様に安心・安全で信頼できるサービスをお届けするために、それを証明できる仕組みが必要だ」と考えたことでした。当時は、ISOが日本ではまだそれほど普及していない時代でしたが、だからこそ国際規格を取ろうと決め、2000年にISO9001を取得しました。当時の判断は正しかったと思っています。ただ、そこから約25年が経ち、事業やサービスのあり方は大きく変わってきました。一方で、ISOの運用が変わらないままだと事業との間にギャップが生まれ、ISOの活動が「認証を維持するため」の形式的なものになりがちです。

当社は「目的」をとても大切にします。そこで一度立ち止まり、ISOは「何のための手段なのか」を改めて問い直しました。今の事業、そしてこれからの事業を加速させ、成長につなげるために、ISOがしっかり機能する形に変えていこうと考えたのです。そうした思いから、約2年前に全社プロジェクトとしてISOを根本から見直す取り組みを立ち上げました。単に運用を改善するのではなく、枠組みそのものを見直し、事業としっかり結びつけたISOへと改革してきました。

—プロジェクトの具体的な内容を教えてください。

このプロジェクトには、大きく三つの目的がありました。一つ目は、事業と乖離しつつあったISOを、改めて事業強化のための仕組みに戻すこと。二つ目は、紙を前

提とした従来の規程やルールを見直し、デジタル基盤へ移行すること。そして三つ目が、ルールの形骸化を防ぎ、本来の目的であるお客様満足の向上につなげることです。

これらを実現するため、「ISO改革タスクフォース」という専門組織を立ち上げ、専任・兼任あわせて3名体制で全社的な見直しに取り組みました。当初は1年を想定していましたが、結果的に2年をかけ、社員一人ひとりの意識改革も含めた抜本的な改革を進めました。

その成果として、昨年10月の内部監査では各部門から、より本質的で建設的な意見が多く聞かれるなど、確かな変化を実感しています。現在では、ISOを維持するというよりも、「お客様満足を高めるために業務をどう改善するか」という視点で、現場から前向きな声が自然と上がるようになっていきます。

—5年後、10年後を見据えて、ISOの取り組みをどのようにお考えでしょうか。

「ISOを空気のような存在にしたい」という考え方は基本的に変わっていません。ISOのために事業活動を行っているわけではなく、事業活動をより良くし、競争力や価値を高めるための拠り所として位置付けています。言わば背骨のような存在であり、原点に立ち返る指針として大切にしています。最終的な目的であるお客様の満足度向上のために、ISOをさらに活用していきたいと考えています。

—今後取り組んでいきたい事業や、目標についてもお聞かせください。

直近の目標は、お客様のバックオフィス業務を場所や時間の制約から解放し、コア業務に集中できる環境を整えることです。業務代行にとどまらず、AIなどの技術を活用した自動化・省力化により、付加価値を提供していきます。

さらに、企画や分析など戦略性の高い業務にも貢献できるよう、専門性とサービス力の向上を図ります。将来的には、当社のノウハウと運用方法を体系化した『アルファテックススキーム』をパートナー企業やお客様にも活用いただき、より多くの価値を届ける仕組みを構築していきたいと考えています。

—前回のインタビューで伺った、長野県小海町との『憩うまち協定』の取り組みは現在も継続中でしょうか。

はい、続けています。小海町は人口約4,500人の町で、過疎化が進む一方、自然や歴史など多くの魅力を持っています。私たちは、町民の皆さんがその価値に気づき、誇りを持てるよう支援を行っています。

新たに始めた取り組みの一つがワインづくりです。小海町は平均標高が約900メートル、高い場所では1,400メートルほどあります。そこで、標高約1,100メートルの休耕地を活用し、地域おこし協力隊とともにブドウ栽培を開始しました。今年で4年目を迎え、収穫したブドウを隣のワイナリーで醸造し、ワインが完成しました。来年以降は販売も予定しています。社員も収穫作業に参加するなど、継続的に関わっています。

もう一つがオペラの取り組みです。長らく活用されて

いなかった町の音楽堂に、私たちが応援しているオペラ歌手を招き、演奏会を開催しました。この活動をきっかけに、「小海町に伝わる民話をオペラ作品にしよう」という構想が生まれ、オリジナルオペラ『クジラの夫婦』の制作がスタートしました。作品は町に古くから伝わる民話を原作とし、地域の物語を芸術として形にしたものです。昨年11月には、小学校体育館を会場に、フルオーケストラによる世界初公演を実現し、当社もスポンサーとして支援しました。

—最後に、会社のPRをお願いします。

近年、ローコードツールやChatGPTなどを活用し、プログラミング経験のない社員も自ら業務効率化ツールを開発するようになってきました。こうした改善活動を共有する場として、約3年前から社内コンクール「OA化大賞」を年1回開催しています。現場発の取り組みを発表・表彰することで、社員のモチベーション向上やITリテラシーの底上げにつながり、ツールの横展開による業務全体の効率化も進んでいます。今後は、社内で培ったノウハウをお客様への価値提供にも生かしていきたいと考えています。

また、YouTubeを活用したオンラインセミナーも実施しており、「OA化大賞」に取り組んだ社員自身が講師となって実践事例を発信しています。ユーザー目線の内容が好評で、業務改善の相談や支援依頼につながるなど、事業拡大のきっかけにもなっています。特に若手社員の柔軟な発想が、新たな価値創出を支えています。



OA部門

2024年度OA化大賞 OA部門 結果発表			得点
1	【最優秀賞】 GL科目消込管理 (CSG 業務大版)		196
2	【優秀賞】 マスター一元化ツール (CS2 FLEQs2)		194
3	【敢闘賞】 請求書自動印刷ツール (CSG 業務大版)		187
4	【敢闘賞】 スケジュール作成ツール (CS1 CCBS)		169

IT部門

2024年度OA化大賞 IT部門 結果発表			得点
1	【優秀賞】 データマスキングツール (CS2 SiW)		191
2	【優秀賞】 PDF表変換 With Power (CS1 CCBS)		177
3	【敢闘賞】 マスタ登録内容照合ツール (CS1 CCBS)		168
4	【敢闘賞】 AWSログ自動取得履歴管理 (SG ビジネスソリューション)		148

「お客様のために」という揺るぎない信念のもと、ITにとどまらず多方面にわたり精力的に活動されている企業様であることが、今回のお話から伝わってきました。貴重で興味深いお話を、誠にありがとうございました。

当コーナーでは、弊社の登録企業様のISO活動や事業をご紹介します。事業への思いや取組みなどについて、PRしてみたい企業様は、是非、下記宛にご連絡ください。

ASR通信 事務局 E-mail: otoiwase@armsr.co.jp

ISO 9001の運用における課題

～要求事項の本質を理解しましょう～(第1回)

1. はじめに

ISO 9001は2026年に改訂予定になっており、規格改訂を前に「もう一度基本に立ち返る」という観点で、新しい解説シリーズを開始します。今回は、品質マネジメントシステムのインプットとしての重要な要素である組織の状況に関するものとプロセスアプローチの基本的な考え方について解説します。

2. 「組織の状況」はなぜ形骸化しやすいのか

(1) 背景

「組織の状況」が形骸化しやすい理由は、要求事項の性質と運用の仕方が合っていないことにあります。例えば、次に示す事項が形骸化の背景と考えられます。

- ・何を、どの粒度で、どの形式で組織の状況をまとめるかが決まっていない。
- ・プロセス・リスク・目標とつながっていないので、組織の状況が変わっても、何も変わらない。
- ・審査対応を主目的として形式的に作成され、日常の経営判断や業務運営と結び付けられていない。
- ・経営層の“思考プロセス”が見えないので、経営の意思決定に使われていない。

(2) 基本的な考え方

組織の状況は、「4.1 組織及びその状況の理解」で規定されていますが、これをわかりやすく説明すると、「**組織がその目的を達成し、品質マネジメントシステムを有効に機能させるために考慮すべき内外の要因を把握・理解すること**」です。

「組織の状況」は本来、分析そのものが目的ではなく、「自組織はどのような環境条件の中で価値を生み出しているのか」、「その条件はプロセスやリスク、目標設定にどのような影響を与えるのか」を明確にするための思考プロセスです。重要なのは、**網羅性や分析手法の立派さではなく、組織の意思決定や行動につながっているかどうか**です。「組織の状況」は、分析すること自体が目的ではなく、「自組織がどのような環境条件の中で価値を生み出しているのか」や「その条件がプロセス、リスク、目標設定にどのような影響を及ぼすのか」を明らかにするための思考プロセスです。

重要なのは、分析の網羅性や手法の精巧さではなく、**その結果が組織の意思決定や具体的な行動につながっているかどうか**です。

そのため、「組織の状況」は一覧表として作成して終

わりにするのではなく、戦略や事業環境の変化に合わせて見直し、プロセス設計、力量管理、リスク対応、目標設定などに適切に反映される“生きた前提条件”として扱う必要があります。

これらを実現するためには、組織の目的や戦略的指向性、さらには品質マネジメントシステムに影響を及ぼす内部・外部の課題を明確にすることが不可欠です。つまり、品質マネジメントシステムを効果的に運営するためには、**外部環境と内部環境を正しく理解し、それらがシステムにどのような影響を与えるのかを十分に検討しておく**必要があります。

(3) 対応方法

形骸化を防ぐためには、まず「組織の状況」を単独の要求事項として扱わず、プロセスアプローチやリスクベースの考え方と明確に結び付けることが重要です。例えば、「この外部課題はどのプロセスに最も影響するのか」、「この内部課題はプロセスの能力やアウトプットにどのような制約を与えているのか」といった問いに落とし込みます。また、マネジメントレビューや事業計画の議論の中で定期的に取り上げ、変更点がプロセスや目標に反映されているかを確認する仕組みを持つことも有効です。文書を整えることよりも、**「状況認識が意思決定に使われているか」を重視すること**で、「組織の状況」は初めて意味を持つことになります。

外部の課題の例を考えてみましょう。外部の課題とは組織の外の話であり、コントロールできない、または影響を受ける要因のことで、次に示すような例があります。

- ・市場・顧客（顧客のニーズの変化、価格競争、要求の高度化）
- ・法令・規制、顧客要求事項（法令改正、業界規制、顧客要求事項）
- ・社会・経済環境（景気動向、原材料価格、人手不足、地球環境）
- ・技術動向（技術革新、デジタル技術の進化）
- ・利害関係者（外注先、地域社会、株主）

内部の課題は、組織の中にある比較的コントロール可能な要因になり、次に示すような例があります。

- ・組織・体制（組織構造、責任・権限の明確さ）
- ・人・力量（要員のスキル、教育訓練、属人化）
- ・プロセス・仕組み（業務プロセスの複雑さ、標準化

の程度)

- ・経営資源（設備、IT、財務状況）
- ・文化・風土（品質意識、改善文化、コミュニケーション）

このような組織の状況は、そのまま「6.1 リスク及び機会への取組み」のインプットになります。この考え方を考慮して、次の表1と表2を参考にして組織の状況を見直しすることを推奨します。

表1 製造業の外部の課題(例)

分類	課題・要因	プロセスへの影響	リスク・機会の視点
市場・顧客	短納期・個別仕様要求の増加	工程設計変更が頻発し、ミスの恐れ	リスク：手戻り増加 機会：工程設計力向上
法令・規制、顧客要求事項	顧客図面要求の高度化	図面読解ミスによる問題発生	リスク：設計解釈不良 機会：AI導入の推進
社会・経済環境	労働人口の減少	人材不足	リスク：技能継承不足 機会：AI導入の推進
技術動向	AIの拡大	効率化の遅れ	リスク：AI活用不足 機会：人材育成
利害関係者	外注加工先の能力差	受入不適合・再加工	リスク：外注品質不安定 機会：外注加工先の工程能力改善

表2 製造業の内部の課題(例)

分類	課題・要因	プロセスへの影響	リスク・機会の視点
組織・体制	製造と設計の役割分担が曖昧	変更情報の伝達漏れ	リスク：不適合流出 機会：責任・権限明確化
人・力量	ベテラン依存工程あり	作業品質のばらつき	リスク：再現性低下 機会：多能工化
プロセス・仕組み	初品管理が不十分	量産初期の不具合	リスク：顧客クレーム 機会：初期流動管理の強化
設備・IT	老朽設備が一部存在	精度不良の発生	リスク：加工精度低下 機会：新技術の設備導入の推進
文化・風土	問題の早期報告が弱い	是正が後追いになる	リスク：問題再発の増加 機会：品質意識向上

3. プロセスアプローチを誤解していないか

(1) 背景

プロセスアプローチはISO 9001の中核的概念であるにも関わらず、現場では誤解されていることが少なくありません。典型的な誤解の例を次に示します。

- ・業務フロー図を作ればプロセスアプローチである（図があること自体が目的化）。
- ・手順を守っていればプロセスは有効である（手順書どおりにやっている＝問題なし）。
- ・部門ごとに最適化すれば全体も良くなる（自部門KPI達成が最優先、次工程は自分たちの責任外）。
- ・KPIがある＝プロセス管理できている（指標を設定しただけで満足、数字を集めることが目

的）。

- ・不適合が出なければプロセスは問題ない（不適合ゼロ＝優秀なプロセス）。
- ・プロセスアプローチは製造向けであり、事務・営業・設計には合わない。

このような捉え方では、プロセスは単なる構造整理に留まり、価値創出やパフォーマンス向上という本来の狙いが見失われます。その結果、審査では説明できても、日常管理や改善活動には活かされないという問題が生じます。

(2) 基本的な考え方

プロセスアプローチは、「プロセス（インプットを使用して意図した結果を生み出す、相互に関連する又は相互に作用する一連の活動）」に対する「アプローチ（物事に取り組む方法）」が必要です。このため、プロセスアプローチの本質は、「**インプットを受けて付加価値を与え、意図したアウトプットを生み出す一連の活動**」として仕事を捉え、その能力と結果をマネジメントすることが大切です。

重要なのは、組織図や手順の有無ではなく、「顧客や次工程に対して、どのような価値を安定的に提供できているか」「そのための条件や管理点は何か」を明確にすることです。また、プロセスは相互に関連し合っており、単独で最適化しても全体最適にはなりません。この「**相互作用**」を意識することが、**プロセスアプローチの理解において欠かせない視点**です。

(3) 対応方法

誤解を是正するためには、まず「このプロセスのアウトプットは何か」「誰にとっての価値か」「うまくいっている／いないことは何で判断するのか」といった基本的な問いからプロセスを再定義することが有効です。

その上で、力量、設備、情報、外部提供者などの条件がプロセス能力にどう影響しているかを整理します。さらに、内部監査や日常管理では、規定遵守の確認に終始せず、「プロセスは意図した結果を出しているか」「結果が出ていない場合、どこに構造的な原因があるか」を評価軸にします。

したがって、プロセスアプローチを“図”ではなく“考え方”として使うことができたとき、マネジメントシステムは初めて組織の実力向上に貢献することになります。

福丸 典芳 氏

(有)福丸マネジメントテクノ代表取締役

著者紹介

日本規格協会品質マネジメントシステム国内委員会の委員を務め、ISO 9001の規格作成にも携わる。

コンサルティング業務、講演会・研修会の実施、書籍の執筆など多方面で活躍。

近著に「ISO統合マネジメントシステムの構築と内部監査の実践」がある。

ISO14001改訂に向けて ～内部監査とマネジメントレビューを「経営に活かす」ために～

1. はじめに

ISO14001では、内部監査およびマネジメントレビューを通じて、環境マネジメントシステム（EMS）が有効に機能しているかを確認することが求められています。

現在検討が進められている改訂では、これらの活動が**形式的な手続きにとどまらず、経営判断に資する情報として活用されているか**が、これまで以上に重視される見込みです。

気候変動や資源制約など環境課題が複雑化する中、内部監査とマネジメントレビューは、**組織の持続的な運営を支える中核的プロセス**として期待されています。

2. 改訂の方向性と内部監査の着眼点

今回の改訂では、気候変動への対応や、製品・サービス全体を捉えるライフサイクルの視点が、より明確に重視される方向です。重要なのは新たな手続きを増やすことではなく、**現在のEMSがこれらの視点を適切に取り込んでいるかを見直す**ことです。

内部監査では、次の点がより重要になります。

- 環境側面やリスク評価が、最新の事業環境を反映しているか
- 目標や管理策が、現場業務に実際に組み込まれているか

文書確認にとどまらず、**運用の実態を確認する監査**が求められます。

3. 内部監査で特に確認したいポイント

■ 環境側面・影響評価

気候変動や資源循環など中長期課題が、評価基準や判断プロセスに反映されているかを確認します。判断根拠が曖昧な場合、改訂対応が難しくなる点に注意が必要です。

■ リスクと機会への対応

リスクや機会の抽出だけでなく、対応策の計画・実施・効果確認までが一連で把握できているかが重要です。

■ 法規制等の順守

法令一覧の更新に加え、**順守評価の結果が改善につながっているか**を確認します。内部監査が改善サイクルの起点となることがポイントです。

4. マネジメントレビューを「判断の場」へ

マネジメントレビューは、単なる年次報告ではなく、環境情報を経営判断につなげるための重要なプロセスです。

特に次の点が重視されます。

- 目標達成状況と未達要因の明確化
- 内外環境の変化を踏まえた次年度方針への反映
- 客観的・定量的データに基づく資料の活用

これらが揃うことで、意思決定の質が高まります。

5. 今からできる準備

改訂を見据えた対応として、**内部監査とマネジメントレビューの強化**が最も効果的です。

■ チェックリスト・議題の見直し

気候変動、ライフサイクル、リスク管理などの観点を先取りして組み込みましょう。

■ 内部監査とレビューの連動

監査結果をレビューで必ず取り上げ、改善の進捗を次回監査で確認する流れを明確にします。

6. おわりに

ISO14001の改訂は、内部監査とマネジメントレビューの在り方を見直す好機です。

これらを**規格対応の作業ではなく、環境パフォーマンスと経営を高める中核プロセス**として位置づけることで、外部審査への対応力だけでなく、組織の成長にもつながります。

今から計画的に準備を進め、より実効性の高いEMS運用を目指しましょう。



エイエスアール主催

企業様向け ISO関連教育サービス

決まった時間に講師が解説するセミナーと、自由な時間に自分のペースで学べる学習動画（e-ラーニング）が、自分のスタイルに合わせて選べます。

▶ ISO関連セミナー（2026年3月～2026年5月）

内部監査員養成セミナー

1日/2日

ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001

ISO規格要求事項の解釈、内部監査員に必要な基礎知識と技能を実践的な講義と演習で学習します。

集合セミナー

1日

品質	東京	3月24日(火)	環境	東京	3月25日(水)
		4月22日(火)			4月23日(木)
		5月27日(水)			5月28日(木)
	名古屋	3月12日(水)		名古屋	3月13日(金)
		4月16日(木)			5月15日(金)
		5月14日(木)			3月19日(金)
大阪	大阪	3月18日(水)	情報	東京	5月21日(木)
		4月17日(金)			3月17日(火)
		5月20日(水)			4月27日(月)

URL https://www.armsr.co.jp/asr_pc/INTERNALAUDIT/INTERNALAUDIT.html

ISO入門セミナー

半日

ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001

「ISOとは何か」から始まり、マネジメントシステム規格がどのようなものかといった、ISOの基礎を解説するセミナーです。

WEBセミナー

品質	4月13日(月) 5月18日(月)	時間	9:00 ～ 12:00
環境	3月16日(月) 5月25日(月)		
情報	4月14日(火)		
URL	https://www.armsr.co.jp/mss11.html		

規格ポイント解説セミナー

半日

ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001

規格要求事項のポイントについて、半日で解説するセミナーです。規格要求事項を勉強したいがあまり時間が取れない方にお勧めします。

WEBセミナー

品質	4月 13日(月) 5月 18日(月)	時間 13:30 ~ 16:30
環境	3月 16日(月) 5月 25日(月)	
情報	4月 14日(火)	
URL	https://www.armsr.co.jp/mss20.html	

環境側面解説セミナー

1日

ISO14001においてシステム構築の基本となる環境側面について、抽出から決定までのプロセス等をわかりやすく解説するセミナーです。

集合セミナー

日程 6月30日(火)

URL <https://www.armsr.co.jp/mss12.html>

規格要求事項の解説セミナー

ISO9001・ISO14001

1日

規格要求事項について、各箇条の意図や要求事項を満たすためにすべきことなどを解説。要求事項について理解を深めるためのセミナーです。

集合セミナー

品質	4月20日(月)
環境	5月12日(火)
URL	https://www.armsr.co.jp/mss21.html

講師派遣型セミナーのご案内

講師が組織様にお伺いし、セミナーを行う「講師派遣型（出張）セミナー」も承ります。

「決まっている日程や場所では参加しにくい」という組織様におすすめのセミナーです。

詳細につきましてはホームページにてご確認ください。
https://www.armsr.co.jp/asr_pc/onsite/

▶ ISO学習動画（e-ラーニング）

ISO関連講座、社員教育プログラム合わせて30本以上のコンテンツをご用意しています。新規講座も順次開講しています。

講座名	視聴時間
ISO関連講座（下記以外にも20以上の講座がございます）	
ISO入門セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001	1時間30分
規格ポイント解説セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001	2時間30分
内部監査員養成講座 ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001 ※修了証発行	6時間
社員教育プログラム（下記以外にも10以上の講座がございます）	
情報セキュリティ社員教育「キミツマモルくん」	1時間15分
Excel講座 基礎編/初級編・中級編・上級編	1時間

※視聴時間は、おおよその時間です。規格（各講座）によって若干異なります。

URL <https://www.armsr.co.jp/websemi.html>

セミナーや学習動画の詳細と最新情報は、ASRトップページのオレンジ色のバナー（下図）かURLからご確認ください。※お申込みはホームページのWEBフォームからお願いいたします。

<https://www.armsr.co.jp/ac/>

セミナー・学習動画（e-ラーニング）に関するお問い合わせはこちら

TEL:03-3666-8624 E-mail:seminar@armsr.co.jp



セミナーと同内容のものから、オリジナルのISO関連・社員教育向けまで、
多彩なeラーニングをご用意。
いつでもどこでも、自分のペースで、何度でも学習できます。



新入社員教育プログラム(8講座セット)

おすすめ!

■Excel講座(基礎編・初級編／中級編) ■Word講座(基礎編／応用編) ■PowerPoint 基本的な使い方
■ビジネスマナー講座 ■ビジネス文書講座

Officeスキルとビジネス基礎を、eラーニングで効率よく習得できる、新入社員向けセットです。PC操作に不安がある新入社員の方も安心して
学べ、社会人としての基本スキルを標準化できます。教育担当者の負担軽減にもつながる、高コストパフォーマンスの講座です。

単品受講合計価格: ¥37,400(税込) ▶ セット価格: ¥24,200(税込)

◀ 約35%OFF!

※弊社登録企業料金の場合



ISO9001 規格要求事項の解説セミナー

全12講座・合計5時間20分

規格の箇条ごとに、要求事項が意図する内容や、要求事項を満たす
ためにすべき一般事例等について、時間をかけて解説します。



ISO14001 環境側面解説セミナー

全6講座・合計2時間10分

この講座では、ISO14001においてシステム構築の基本となる「環境」に
ついて、抽出から決定までのプロセス等をわかりやすく解説します。

詳細・お申し込み → <https://www.armsr.co.jp/ac/index.html>

ASR 教育サービス

検索



エイエスアールの スタッフ紹介

柔軟な対応で、最適なお提案を



氏 名: 高木 雄太(たかぎ ゆうた)
所 属: 営業部
趣 味: サッカー・旅行

いつもお世話になっております。営業部の高木と
申します。

現在は、ISO認証の新規取得をご検討されている
企業様や、すでに取得済みの企業様に対し、認証
サービスにとどまらず、それぞれの企業様の状況や
課題に合わせたご提案を行っております。

私事ではありますが、旅行が趣味で、国内外さまざ
まな場所を訪れています。去年は初めて海外での一
人旅にも挑戦しました。実際に現地へ足を運ぶと、
街の雰囲気やにおい、食べ物、自然環境など、その

土地ならではの魅力を感じることができ、毎回新し
い発見があります。近年はSNSなどを通じて多くの
情報を手軽に得られるようになりましたが、「その
場所に立つからこそ感じられること」の大切さも実
感しています。

この気づきは、日々の業務にも通じていると感じ
ています。オンライン打ち合わせは利便性が高く、
在宅ワークや遠方のお客様にとって、欠かせない手
段だと感じています。一方で、対面でお会いするこ
とでこそ生まれる理解や気づきもあり、状況に合わ
せて最適な方法を選ぶよう心がけています。

発行元: エイエスアール株式会社

本 社: 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-10-15
TEL 03-3666-8757(代) 03-3666-0478(営業部)

名古屋支社: 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-2-5
TEL 052-533-1822

名古屋第二支社: 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-3-26
TEL 052-211-7102

大阪支社: 〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町4-5-16



品質・環境・労働安全衛生 情報セキュリティ

★次回発行は2026年5月の予定です。(年4回発行)
皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。

E-mail otoiawase@armsr.co.jp

ASR ISO

検索